「みどり法」グループ認定の取り組みについて

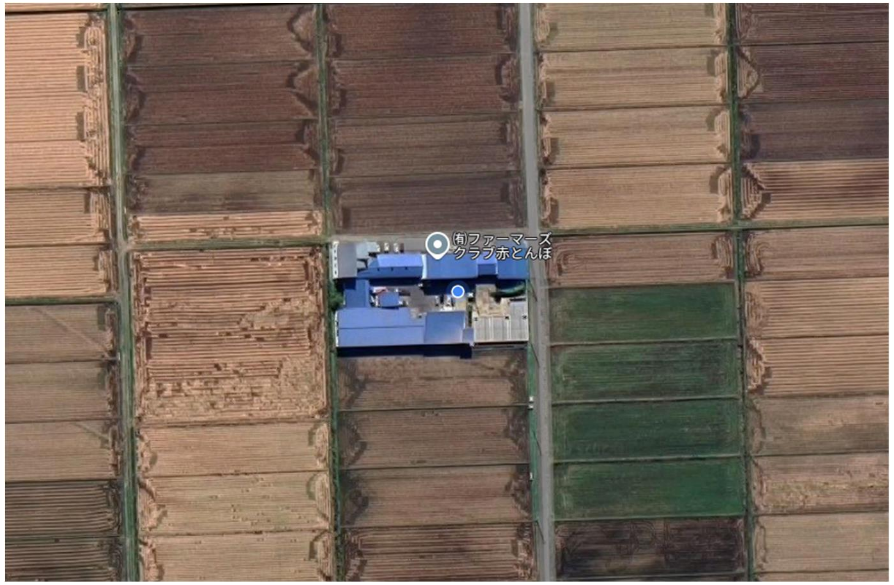
有限会社ファーマーズ・クラブ赤とんぼ
代表取締役　北澤正樹

令和8年2月18日

ファーマーズ・クラブ赤とんぼ

所在地：山形県東置賜郡川西町

のどかな田園風景に囲まれた場所にあります



会社概要

- FC赤とんぼは、1995年8月に『地域農業と環境を守り、安全な食べ物を生産し供給する』というテーマに賛同した10名の農家と一緒に設立し、環境負荷の少ない農業を実践しています
- 設立以前から、地域の農家から田植えや稲刈りなどの作業を委託されることが多くありました。じいちゃん、ばあちゃんを田んぼから切り離さないためにも、若手農家が活躍できる共同利用の施設が、地域には必要と強く感じたことに加え、消費者から安全な農産物が欲しいという声が赤とんぼ設立の大きな理由となっています
- 農家戸数　54戸
- 事業内容

米の取組

＊米集荷

＊精米

＊販売

（主に生協　等）

卵の取組

＊平飼い解放鶏舎で飼育

＊無薬（無投薬）飼育

＊飼料用米・子実とうもろこしを利用した自家配合飼料で飼育

＊就労支援事業所との協力による農福連携

＊「平飼い米っこたまご」販売

（生協・道の駅・地元菓子店　等）

農家との取組

＊会員農家からの作業委託

＊各種認証申請

＊施設の共同利用

＊資材の共同購入

みどり認定の取得内容【環境負荷低減事業活動】

ファーマーズ・クラブ赤とんぼの栽培基準として、3種類の栽培タイプを設け、これに沿った栽培を会員農家が実施する。

① 有機栽培、化学肥料・化学農薬不使用栽培

② 化学肥料不使用・除草剤1回栽培
（3成分以内）

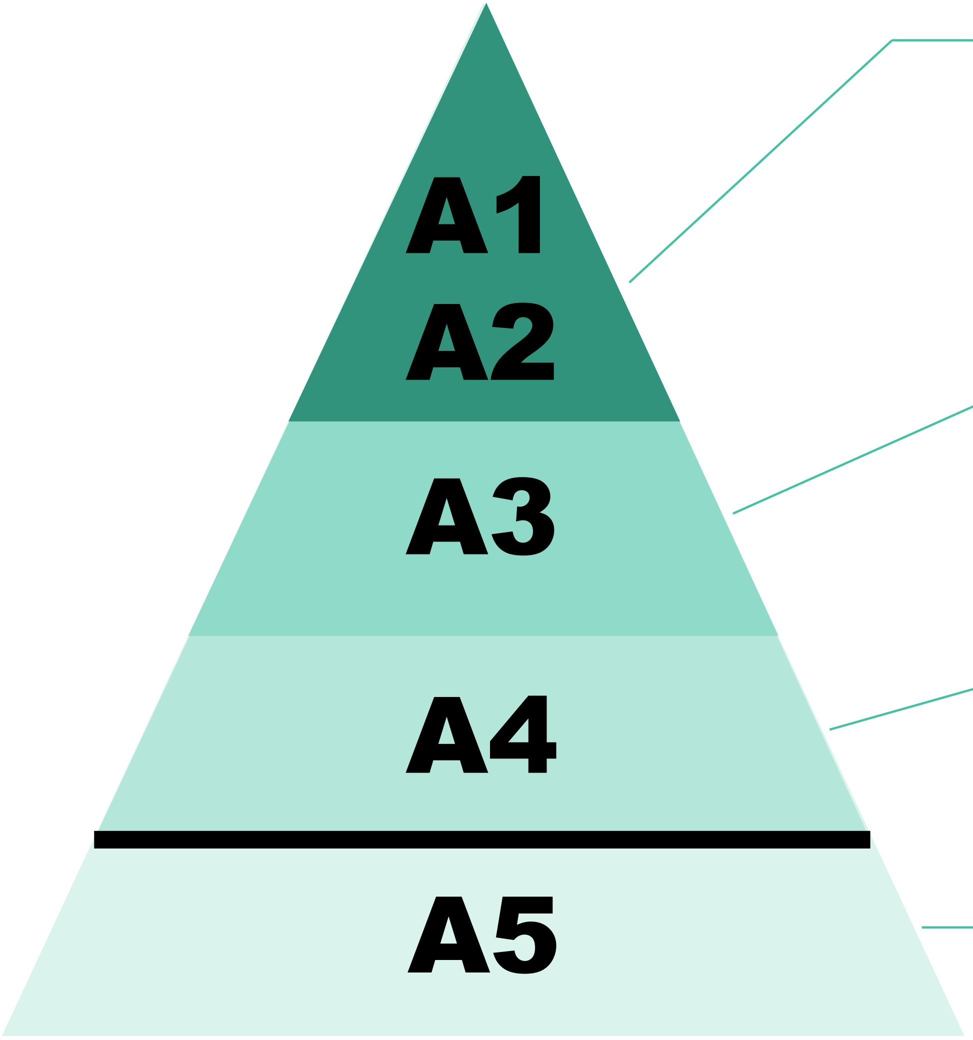
③ 化学肥料5割減・化学農薬低減栽培
（栽培期間中使用成分合計4成分以内）

みどり認定の取得内容【環境負荷低減事業活動】

令和6年2月申請　実施期間：令和6年4月～令和11年3月（目標年度）

実施内容（導入する生産方式）	資材の使用量等	
（有機質資材の施用） ・堆肥散布の実施 施用時期：3～4月	（現状） 1.2トン/10a	（目標） 1.2トン/10a
（化学肥料の施用減少） ・有機質資材の施用	（慣行） 7.0kg/10a	（目標） ①・② 化学肥料不使用 ③ 3.5N-kg/10a 以下
（化学農薬の使用減少） ・種子温湯殺菌の実施 ・畦畔除草の徹底による除草剤散布回数の見直し	（慣行） 20回	（目標） ① 化学農薬不使用 ② 3回（成分）以下 ③ 4回（成分）以下
環境負荷低減事業活動の取組面積等		（目標） ① 4ha増 ② 8ha増 ③ 8ha増

ファーマーズ・クラブ赤とんぼ　お米の格付け



◎ ①有機栽培（JAS認証）

◎ ①転換期間中有機栽培
（JAS認証）

◎ ①栽培期間中農薬・
化学肥料不使用（特栽認証）

◎ ②減農薬栽培Ⅰ
化学肥料不使用・除草剤1回（3成分以内）

◎ ③減農薬栽培Ⅱ
有機50%以上の肥料・農薬4成分以内
新規や規模拡大の農業者が取り組みやすい
栽培方法の導入

みどり認定の取得内容【4つの取り組み】

①　土壌診断を行い、地域の畜産堆肥を活用した土づくりを実施

分析結果報告書

日環科 S3J33-8699 号
令和 7年 5月 8日

有限会社 ファーマーズ・クラブ赤とんぼ 様

計量証明事業登録番号 山形県第27号
〒990-2346 山形市高木6番地
TEL 023(644)6900　FAX 023(644)6908
日本環境科学株式会社
代表取締役　佐藤 和夫

環境計量士　安達 毅
登録番号 第7887号

令和7年4月10日に御依頼がありました試料の分析結果を、次のとおり報告します。

採取時の記録事項

試料名	北澤正樹(関根淳1)			試料区分	土壌
採取場所	圃場No. 87/上山市 関根 西通 1153/15.7a			試験区分	含有量試験
採取日	令和7年4月6日	天候	前日 ー 当日 ー	採取者	持ち込み

分析結果

分析項目		分析結果	定量下限値	分析方法
窒素全量	mg/100g	230	0.1	ケルダール法
リン酸全量※	mg/100g	170	0.1	バナドモリブデン酸アンモニウム吸光光度法
カリウム全量※	mg/100g	440	0.1	ICP質量分析法
カルシウム全量※	mg/100g	220	0.1	ICP質量分析法
マグネシウム全量※	mg/100g	650	0.1	ICP質量分析法
腐植	%	4.3	0.1	チューリン法
以下余白				

みどり認定の取得内容【4つの取り組み】

②　温湯処理による種子殺菌を実施

６０℃のお湯に５分間浸すことで、化学農薬を使わずに病原菌を死滅させる、環境にやさしい殺菌方法です。２～３戸の農業者で施設の共同利用と共同作業を行うことで、労力・コスト削減にも繋がっています。